



## 2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年2月10日

上場会社名 株式会社 安楽亭

上場取引所 東

コード番号 7562 URL <http://www.anrakutei.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柳 先

問合せ先責任者 (役職名) 総務人事部 次長 (氏名) 町田 英之

TEL 048-859-0555

四半期報告書提出予定日 2023年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	21,135	22.4	388		72	94.3	355	
2022年3月期第3四半期	17,271	11.4	1,882		1,262		977	

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 346百万円 ( %) 2022年3月期第3四半期 976百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	166.36	
2022年3月期第3四半期	457.11	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	20,600	4,523	22.0
2022年3月期	21,664	4,871	22.5

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 4,523百万円 2022年3月期 4,871百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		0.00	0.00
2023年3月期		0.00			
2023年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	28,196	20.1	571		94		651		304.54

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	2,139,434 株	2022年3月期	2,139,434 株
期末自己株式数	2023年3月期3Q	1,806 株	2022年3月期	1,617 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	2,137,732 株	2022年3月期3Q	2,137,900 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症防止のための行動制限が緩和され、経済社会活動の正常化が期待された一方、世界的な物価上昇やウクライナ情勢等の地政学リスク、急速な円安の進行等により不安定な情勢が続き、景気の先行きは不透明な状況で推移しました。

外食産業におきましては、新型コロナウイルスに関する行動制限は緩和されたものの、原材料・エネルギー・物流等諸コストの高騰による物価上昇に対し消費者の生活防衛意識が強まったうえ、年末には新型コロナウイルス感染第8波が発生するなど、引き続き厳しい経営環境が続きました。

このような環境のもと、当社グループは、経営理念である「食を通じて地域社会の豊かな生活文化の向上に貢献する」に基づき、お客様の基本ニーズである「安全・安心」に徹底してこだわった「自然肉100%」の商品提供を堅持するとともに、店内の衛生管理を強化・徹底し、お客様に安心してご来店いただける環境づくりに注力してまいりました。また、消費者の意識・行動の変容を的確にとらえ、収益力を維持向上させていけるよう、新メニュー開発やフェア企画の実施を積極的に進めたほか、その他業態の2店舗をステーキ業態（ステーキのどん）へ転換するなど、グループ内の業態最適化を進めました。

一方、あらゆるコストが上昇する経済状況において、DXや業務改善による店舗人員体制の最適化、本社間接経費の削減等、構造的なコスト見直しや生産性向上を推進し、コストの圧縮及び収益基盤安定に努めると同時に、商品価値を維持するためのメニュー価格改定も適宜行いました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高211億35百万円（対前年同期比22.4%増）、営業損失3億88百万円（前年同期は営業損失18億82百万円）、経常利益72百万円（対前年同期比94.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純損失3億55百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益9億77百万円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### ① 安楽亭業態

安楽亭業態の当第3四半期連結累計期間末の店舗数は161店舗であります。内訳は直営112店舗、暖簾12店舗、FC37店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、当社グループ創業以来の「自然肉」ポリシーに裏付けられた肉本来の美味しさを消費者にダイレクトに伝える新メニューとして、「ワイルドカルビ」及び「ワイルドロース」を販売開始いたしました。分厚いカット、芳醇な肉の旨味と食べ応えが特長であり、安楽亭の新たな名物メニューのひとつと位置付けて、食べ放題や定食、フェアメニュー等、お客様との多様な接点を設けております。

また、人気の食べ放題については、「新食べ放題 ワイルドプライスフェア」等、食べ放題をお得にお楽しみいただく販促フェアを引き続き積極的に展開してまいりました。また、多様な食べ放題ニーズへの対応を図るべく、既成のプランに上位コースの7種の肉の食べ放題を追加できる「肉強化オプション」も導入しております。

さらに、DXの取り組みとして、お客様のスマートフォンにてテーブルオーダーをしていただく「スマホオーダーシステム」をほぼ全店に導入いたしました。

以上の結果、安楽亭業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は79億82百万円（対前年同期比19.8%増）となり、セグメント損失（営業損失）は24百万円（前年同期はセグメント損失5億76百万円）となりました。

#### ② 七輪房業態

七輪房業態の当第3四半期連結累計期間末の店舗数は24店舗であります。内訳は直営19店舗、暖簾2店舗、FC3店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、「やわらか上タンと秋の味覚フェア」「九州うまいものフェア」等、七輪房の多様で上質な肉の魅力をアピールするフェア施策を積極的に実施してまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は12億92百万円（対前年同期比9.7%増）となり、セグメント利益（営業利益）は1百万円（前年同期はセグメント損失1億36百万円）となりました。

#### ③ アークミール

アークミール業態の当第3四半期連結累計期間末の店舗数は132店舗であります。内訳は直営131店舗、FC1店舗であります。アークミール業態には、「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「フォルクス（ステーキ）」、「donイタリアーノ（イタリアン）」を含んでおります。なお、当累計期間において、その他業態であった「えんらく（焼肉食べ放題）」及び「アグリコ（イタリアン）」の計2店舗を、ステーキのどんに転換しております。

販売促進及び商品開発につきましては、「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「フォルクス」の主要各業態において、安楽亭業態等と同様、積極的に来店促進の施策を展開してまいりました。「『LINEで予約』キャンペーン」として、割引やプレゼント贈呈等のお得なサービス企画を主要3業態共通で実施したほか、「冬のあたたかフェア」（ステーキのどん）、「黒酢酸辣湯しゃぶしゃぶフェア」（どん亭）、店舗限定での「シェーククリーム&アイス食べ放題」（フォルクス）等の企画を実施いたしました。

以上の結果、アークミールの当第3四半期連結累計期間の売上高は115億39百万円（対前年同期比24.9%増）となり、セグメント損失（営業損失）は30百万円（前年同期はセグメント損失7億80百万円）となりました。

#### ④ その他業態

その他業態の当第3四半期連結累計期間末の店舗数は6店舗であります。内訳は直営4店舗、FC2店舗であります。なお、その他業態には、「からくに屋（焼肉）」、「花炎亭（焼肉）」、「上海菜館（中華）」、「カフェビーンズ（喫茶）」、「安楽亭ベトナム（焼肉）」を含んでおります。

その他業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は3億20百万円（対前年同期比65.7%増）となり、セグメント損失（営業損失）は21百万円（前年同期はセグメント損失54百万円）となりました。

### （2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ10億64百万円減少し、206億円となりました。これは、現金及び預金の減少等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ7億16百万円減少し、160億76百万円となりました。これは、長期借入金の減少等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ3億47百万円減少し、45億23百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等が要因です。

### （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、2022年11月10日に公表いたしました「業績予想(連結・個別)の修正に関するお知らせ」から変更しておりません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,948,393	2,664,222
売掛金	890,003	1,325,778
商品及び製品	584,421	835,125
仕掛品	2,869	6,615
原材料及び貯蔵品	1,045,491	1,208,297
前払費用	371,265	476,988
未収消費税等	48,876	1,230
その他	281,946	190,232
貸倒引当金	△4,917	△4,917
流動資産合計	7,168,351	6,703,572
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,262,934	3,165,616
機械装置及び運搬具(純額)	78,554	63,620
工具、器具及び備品(純額)	441,525	404,468
土地	6,080,942	6,080,942
リース資産(純額)	124,221	71,770
建設仮勘定	132,790	14,332
有形固定資産合計	10,120,968	9,800,750
無形固定資産		
のれん	24,267	15,167
その他	503,657	533,758
無形固定資産合計	527,925	548,926
投資その他の資産		
投資有価証券	144,644	150,038
長期貸付金	8,475	6,654
長期前払費用	265,852	212,898
繰延税金資産	205,870	136,697
敷金及び保証金	3,218,505	3,038,846
その他	31,078	28,773
貸倒引当金	△26,735	△26,661
投資その他の資産合計	3,847,691	3,547,247
固定資産合計	14,496,584	13,896,924
資産合計	21,664,935	20,600,496

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	924,915	1,158,153
短期借入金	3,697,000	3,622,200
1年内返済予定の長期借入金	1,212,580	1,493,739
リース債務	57,864	36,730
割賦未払金	300,006	297,239
未払金	425,147	415,078
設備関係未払金	163,927	40,380
未払費用	865,363	848,681
未払法人税等	251,791	36,433
未払消費税等	43,890	375,699
賞与引当金	116,686	77,675
転貸損失引当金	9,539	—
資産除去債務	22,998	29,539
その他	371,335	533,885
流動負債合計	8,463,045	8,965,436
固定負債		
長期借入金	6,052,564	4,990,591
リース債務	151,232	98,500
長期割賦未払金	733,288	652,735
繰延税金負債	186,189	185,283
役員退職慰労引当金	129,342	139,113
退職給付に係る負債	432,798	420,869
資産除去債務	383,950	351,837
その他	261,385	272,563
固定負債合計	8,330,753	7,111,495
負債合計	16,793,799	16,076,932
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,472,098	2,472,098
利益剰余金	△798,241	△1,153,866
自己株式	△9,065	△10,349
株主資本合計	4,847,177	4,490,267
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,642	18,942
為替換算調整勘定	6,294	10,357
退職給付に係る調整累計額	5,021	3,996
その他の包括利益累計額合計	23,958	33,296
純資産合計	4,871,135	4,523,564
負債純資産合計	21,664,935	20,600,496

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	17,271,532	21,135,083
売上原価	6,685,208	8,012,880
売上総利益	10,586,324	13,122,203
販売費及び一般管理費	12,469,276	13,510,816
営業損失(△)	△1,882,952	△388,612
営業外収益		
受取利息	2,577	2,399
受取配当金	2,589	2,783
受取地代家賃	48,776	35,234
助成金収入	3,218,886	505,821
その他	32,954	17,513
営業外収益合計	3,305,784	563,751
営業外費用		
支払利息	89,307	96,806
支払手数料	48,500	1,026
賃貸収入原価	20,705	4,824
その他	1,608	457
営業外費用合計	160,120	103,115
経常利益	1,262,711	72,023
特別利益		
固定資産売却益	3,336	327
受取補償金	120,000	—
特別利益合計	123,336	327
特別損失		
固定資産除却損	5,038	5,851
減損損失	27,044	193,560
賃貸借契約解約損	11,557	96,934
特別損失合計	43,640	296,345
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	1,342,407	△223,994
法人税、住民税及び事業税	262,446	61,939
法人税等調整額	102,696	69,690
法人税等合計	365,143	131,630
四半期純利益又は四半期純損失(△)	977,263	△355,625
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	977,263	△355,625



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	977,263	△355,625
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,209	6,299
為替換算調整勘定	1,808	4,063
退職給付に係る調整額	△1,254	△1,025
その他の包括利益合計	△656	9,337
四半期包括利益	976,607	△346,287
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	976,607	△346,287

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる、四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	アークミール	その他業態	計			
売上高								
顧客との契約から生じる収益	6,662,507	1,178,111	9,237,338	193,575	17,271,532	17,271,532	—	17,271,532
外部顧客への売上高	6,662,507	1,178,111	9,237,338	193,575	17,271,532	17,271,532	—	17,271,532
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	6,662,507	1,178,111	9,237,338	193,575	17,271,532	17,271,532	—	17,271,532
セグメント損失(△)	△576,936	△136,526	△780,276	△54,661	△1,548,401	△1,548,401	△334,550	△1,882,952

(注) 1. セグメント損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「七輪房業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては2,274千円であります。

「アークミール」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては24,769千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	アークミール	その他業態	計			
売上高								
顧客との契約 から生じる収 益	7,982,367	1,292,260	11,539,636	320,819	21,135,083	21,135,083	—	21,135,083
外部顧客への 売上高	7,982,367	1,292,260	11,539,636	320,819	21,135,083	21,135,083	—	21,135,083
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	7,982,367	1,292,260	11,539,636	320,819	21,135,083	21,135,083	—	21,135,083
セグメント利益 又は損失(△)	△24,690	1,174	△30,072	△21,638	△75,226	△75,226	△313,386	△388,612

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては24,752千円であります。

「七輪房業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては28,620千円であります。

「アークミール」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては131,233千円であります。

「その他業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては8,953千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。